《 泣ける話 》　　“ 最後のアナウンス ”　東日本大震災秘話　　No. 1

「ただ今、津波が襲来しています。早く高台へ避難してください。」
　声の主は遠藤未希さん。
南三陸町役場の危機管理課に勤める 24 歳の女性だ。

　3 月 10 日のこと・・・・・・、
　その日の夜、仕事が終わった未希は自宅のアパートで、
母と最期の会話となる電話をしていた。
「お母さん、大丈夫だよ。ちゃんとやってるから。うんうん。それも平気だよ。あと半年あるから。うんうん。わかった。じゃあね。」
　昨年 7 月に結婚した未希は、今年の 9 月に披露宴を行うはずだった。順風満帆に見えた未希の将来。

　ところが・・・・・・、

　運命の 3 月 11 日・・・・・・、
「津波が襲来しています。急いで高台に避難してください。津波が襲来しています。海岸付近には絶対に近付かないで・・・・・・。」
「未希ちゃん、もういいよ。」
　役場内のアナウンス室にいた未希の所に、主任の山内が入って来て一喝したのだ。
「あとは俺がやるから。君もみんなと一緒に避難しなさい。」
「でも・・・・・・。」
　未希がつぶやいた。
「これが私の仕事ですから。」
「じゃあ、あと 1 回だ。それが終わったら私と代わりなさい。」
「はい。」

　未希は必死のアナウンスを続けた。
「海面に変化が見られます。津波が襲来しているので、至急高台に避難してください。」
「海岸付近には近付かないでください。高台に避難してください。」

❤ Happy Birthday　３／11‥井上恵美子さん（給食補助）